

トライアングル

発行日/令和6(2024)年5月 発行/一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者/村上利男 編集/松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

支援のアイデア 特集

どんな支援ツールを使っているのか知りたい！聞きたい！！

強度行動障がい・自閉スペクトラムの方への支援を考える際に、「どのような支援ツールを作ったら良いのかわからない」「他事業所ではどのような支援ツールで実践しているのか」「成功したエピソードを聞いてみたい」という意見を耳にすることがあります。このような利用者支援に携わる皆様の思いに添えたく、今回の特集は【児童発達】【施設入所】【生活介護】【就労】の分野で実践されている支援ツールを掲載することにしました。少しでも日々の支援の参考になればと考えております。

令和6年4月15日に社会福祉法人東大阪市社会福祉事業団東大阪市立障害児者支援センターレピラの東大阪市立はばたき園へ視覚支援について取材しました。東大阪市立はばたき園は、この4月に福祉型と医療型の児童発達支援センターが統合され、0歳から就学前までの障がいのある子どもや医療的ケアが必要な子どもたちが利用されています。今回、地域発達支援室室長の熊谷友紀子氏、相談員の山本恵氏、児童指導員の山口(溝口)遥氏から、園内で活用されている視覚支援ツール等についてお話を伺いました。(広報委員 丸谷昌広)

★スケジュールボード

2歳から就学前までの子どもたちが活動される部屋に掲示されているスケジュールボードです。

当日の活動内容を上から順に並べ、活動が終わるとカードを外し、赤い枠のボックスに入れることで活動の終わりを示されています。子どもたちに分かりやすいイラストを用いて、1日の予定が見通せるよう創意工夫されています。また、活動間の動きや普段と違う活動等は、通常の活動予定の右側に貼り、今日は違う予定があるということもしっかりと伝えておられます。



★自立課題

子どもたちの年齢や状態像に合わせて、「めばえ」という自立課題を提供されています。穴に棒を通す、イラストと消しゴムをマッピングさせる作業、紐とおし等があります。また、子どもの成長や課題に応じて、物をつかむ道具をピンセットから箸に変えたり、紐の太さを変えたりして、細かな調整ができるように工夫されています。すべて手作りされており、その子に合った物をその都度作ってこれた職員の皆様の努力の結晶に感じました。



★タイムズはばたき園内

子どもたちが大好きな乗り物遊具の片付ける場所を、街中にあるタイムズをイメージした環境にされています。

視覚的に提示して使った遊具を片付けるというだけでなく、子どもたちが自ら片づけたくなるような動機づけ、能動的に取り組めるように工夫されています。車やバイクを駐車場に停めるといって、大人の行動に憧れる子どもたちは乗るだけでなく停めることも楽しんでおられると感じました。



支援のアイデア特集 どんな支援ツールを使っているのか知りたい！聞きたい！！

東大阪市立はばたき園	1
アンダンテ加島	2
摂津市立ひびきはばたき園	2
ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチャよど	3

●ちょっとつばきりレー●	
市立ひらかた子ども発達支援センター	
児童発達支援管理責任者 千草早苗	4
フォトコンテスト	4
第58回フレンドシップソフトボール大会を開催いたします	4

北摂杉の子会 ジョブサイトよど (生活介護) ジェイ・ブランチよど (就労継続支援事業B型) での取り組み

色のカゴに入っているボトルキャップを背
足跡のイラストの上に立ってもらい、白
思いから取り入れられています。
利用者さんの運動不足を少しでも解消したい
思いから取り入れられています。

生活介護と就労支援で実践されている支
援ツールについて、令和6年4月12日、北
摂杉の子会ジョブサイトよど施設長の下裕
幸氏、ジョブジョイントおさかサービス
管理責任者の安田麻美氏からお話を伺いま
した。
館内を案内して頂くと、職員の方々が手
作りされた支援ツールがたくさんあり、利
用者お一人お一人の障がい特性に応じた活
動スペースを構造化して支援されています。
数ある支援ツールの中から2つの支援
ツールをご紹介します。

★背伸びでボトルキャップ入れ

こんな方におススメ!

— 全身運動を取り入れたい方に

こんな方におススメ!
— 自分の気持ちを伝えることが難しい方に
作業場面で使用しているコミュニケーション
ボードです。絵カードコミュニケーション

★気持ち表出ボード

伸びして、同じ種類のボトルキャップ付い
ている箱に入れていきます。ただ体を動か
すだけではなく、利用者の興味関心を活か
したものになっているので、楽しんで取り
組むことができるように工夫されています。



シヨンのように、カードを取り外して自分
の気持ちが出せる支援ツールを目にする
ことがあるかと思えます。ここで紹介す
る支援ツールは、カードで気持ちを伝える
のではなく、ボードに記載されている項目
にビーズを動かして、今の調子をスタッ
フに伝えられる仕組みです。ご本人の意思
だけでなく、体調面と精神面においても配
慮されています。

(広報委員 水津由依 吉村周二)

摂津市立ひびきはばたき園 視覚支援について

令和6年4月4日に社会福祉法人摂津有
和会摂津市立ひびきはばたき園に、広報委
員長の同法人理事長・松嶋桂子氏と、広報
委員の児童発達支援センターはばたき園
(東大阪市) 山口児童指導員・山本相談員
で取材に行きました。ひびきはばたき園で
は園長河村昌伯氏と指導員増田浩和氏が対
応してくださいました。園は多機能型で生
活介護、就労継続支援B型、自立訓練、就
労移行支援をされています。知的障害や身
体障害、高齢の方などが利用されており、
中には強度行動障害の方もいらっしゃいま
す。
写真①は、言葉で気持ちを伝えるのが難
しくトイレに行きたくなると急に部屋を飛
び出してしまふ利用者用に作られたもので
す。日中活動中に急に飛び出してしまふの
で他の利用者や職員が驚いてしまつたり急
な対応ができなかつたりしていたようです。

が、「本人はトイレに行きたかつた」とい
うことが分かり、この案内を作つたそう
です。まだ練習中ですが、ベルを鳴ら
して事前に知らせることで職員も対応し
やすくなり、本人に合わせた対応をす
ることで、本人も職員も安心して過ご
せられる環境を作られています。
写真②は、利用者が1日の流れを、見通
しを持って安心して過ごせるように作ら
れたスケジュールボードです。上
から下へ、と一
連の流れが分か
るようになって
います。利用者
の方が過ごすス
ペースに、見え
るように掲示し
てあります。一



つこの活動ごとにラミネートされてあり、台
紙から外せるようになっていきます。終わつ
た活動は利用者の方と一緒にカゴに入れる
ことで活動の終了を明確にし、次にするこ
とは何かを確認しやすくしています。帰る
前に明日のスケジュールを貼つてから帰ら
れる方もいるそうです。利用者一人ひとり
によって活動内容は違ってきます。

(広報委員 山本恵 山口遥)

加島友愛会 アンダンテ加島 工夫あれこれ

大阪市加島・三津屋地域を中心に複数の
事業を展開している社会福祉法人加島友愛
会のアンダンテ加島を、令和6年4月12日
に訪問しました。アンダンテ加島は施設入
所と生活介護を運営されており、20代から
70代までの方が生活されています。支援
ツールの活用方法やポイントについて、施
設長の杉本昌志氏よりお話を伺いました。
★作業場面 (モチベーションアップ、
やる気アップ)
利用者が作業
に集中できるよ
うに、パーテー
ションを設置し
たり机の向きを
変えるなどして
構造化されてい
ます。困つたこ



とがあれば、ベルを鳴らして支援者に伝え
られるように工夫されています。
また、利用者のモチベーションを維持す
る為に、目標数や期日の設定、報酬の提示
方法など様々なアイデアがありました。
ここでは、作業を終えると対価がもらえる
仕組みを活用した支援ツールを紹介しま
す。作業完了ごとに、ホワイトボードにあ
る枠内にマグネットを置いていき、全ての
枠がマグネットで埋まればジュースの絵を
持つて、支援者へ報告に行きます。その他
にもお金やお菓子の絵など、利用者の皆様
が好きなもので作成されており、たくさん
のバリエーションがありました。
★生活場面 (身だしなみも大切に)
色んな種類の服を持っているにも関わら
ず、毎日同じ服しか着ようとする利用者
への支援ツールについて紹介します。毎日

違う服を着られるように、衣装ケースには
曜日を提示しています。
例えば、月曜日であれば、月、
と貼つてある衣装ケースから
翌日に着たい服を選んでもら
うことで、衣服へのこだわり
に配慮しながらも自分で選
択できるように工夫をされてい
ました。
(広報委員 水津由依 吉村周二)



【一言メモ】
共有部に支援ツールを
置くと、混乱する利用者もいる
ため、各々の自室に提示する
ということを基本とされて
いるそうです!

市立ひらかた子ども発達支援センター
児童発達支援管理責任者 千草早苗

こんにちは！市立ひらかた子ども発達支援センターの児童発達支援管理責任者の千草早苗です。枚方市で発達に支援が必要とされる子どもやその保護者が相談できる場所として、磯島北町に建って5年になります。「すぎの木」「なのはな」の通所部門、相談支援部門、発達相談部門、医療リハビリテーション部門、地域支援部門などそれぞれの機能を備えたくさんの方々に利用していただいています。

今回は主に発達に支援を必要とする子どもたちが通う児童発達支援「すぎの木」で利用している通園バスについてお話しします。報道などで牧之原市の認定子ども園で発生した悲しい事件が取り上げられ保護者の中には不安に思われる方もいらっしゃるかもしれません。「すぎの木」では子どもたちのことを大切に、添乗の職員が何度も確認を行い安全に取り組んでいます。昨年6月から置き去り防止装置の感知センサーを取り付けました。子どもたちが大好きなバスに、安心して乗っていただき元気に通所できるように今後も安全に取り組んでいきます。

次回は中津学園
児童指導員の方
をお願いします



フォト
コンテスト



作品名：かき水が上手いっ！！！！



作品名：だいすき！



作品名：糸と私の日常

支援スタッフ委員会として2023年度、何か新しい取り組みをしたいと考えました。普段、施設で写真を撮られているものを、支援スタッフ委員会で集め、施設やその映っている方の存在を共有し合う方法としてフォトコンテストを実施してみようと考えました。

募集作品のテーマは「らしさ輝く」です。応募して頂いた作品の中から3作品を大阪知的障害者福祉協会総会時に表彰します。今回は応募して頂いた写真を7枚紹介させていただきます。2024年度も継続して実施しますので、どしどし応募してください！支援スタッフ委員会よりメールにてお知らせします。
(支援スタッフ委員長 松田隆作)



作品名：喜寿のお祝い



作品名：家族と久々の外食



作品名：ワクワク！ドキドキ！
のミュージックケア！



作品名：とったどー！

編集後記

広報委員会のメンバーが変わりましたので、報告します。東大阪市立はばたき園の山口遥さん、茨木学園の櫻井由香子さんが広報委員をやめられ、かわってハートフル北条の丸谷昌広さん、東大阪市立はばたき園の山本恵さんが新しく広報委員になられました。引き続き、隆光学園の吉村周一さん、淀川地域障がい者就業・生活支援センターの水津由依さん、いちょうの森の柴崎宏之さんとみんなで力を合わせて紙面の充実を図ります。これからも皆様の応援をよろしくお願いたします。(広報委員長 松嶋桂子)

INFORMATION

第58回フレンドシップソフト
ボール大会を開催いたします

恒例のソフトボール大会を会員施設・事業所等の利用者皆様の日頃の練習成果を発表する機会、体力向上、参加者の親睦交流に寄与することを目的としまして、6月6日(木)雨天時は6月13日(木)に大阪久宝寺緑地内陸上競技場にて開催いたします。